

平成 22 年第 3 回定例会（9 月）一般質問

（3）人員削減後の福祉施策について

- 議員 宮下 裕美子 3 点目に入らせていただきます。最後は人員削減後の福祉施策についての質問です。切手事件に関連し、年度途中に特別職の教育長を含む都合 3 名の退職者を出したことは人事の面でも大きな影響があったことと推察します。処分を含め人事異動の規模が大きくなり、苦心されたのではないかとこのように考えます。

この人事異動で事件の現場となった教育委員会はほとんどの人員が入れ替えられたほか 6 月 9 日以降空席だった教育長のポストも明後日には新しい教育長が就任し、これでやっと新体制が始まるのだろうというふうに見えています。新しい教育長を中心に時代の要請や要望にあった教育行政を町民の信頼を得ながら進めていただきたいと思います。

一方それ以外の部署では 2 名の欠員分を産業課と住民課保健センターが分け合い、それぞれ 1 減となりました。この部分、特に保健センターの人員が削減されたことに対して、私は非常に疑問を持っています。なぜ、保健センター、つまり福祉部門が欠員になるのでしょうか。福祉の担当範囲はとても広く時代のニーズも高い分野です。その担い手は都市部であれば民間が進出していますが、月形町のような田舎では、行政が対処しなければなりません。また、人と人との関わりの上に成り立つのが福祉なので、効率化が難しい分野でもあります。それに対象者が増える一方なのも特徴です。例えば、高齢者福祉、月形町は高齢化率 33% で全道平均より 10% も高く、高齢者福祉への取り組みは最重要課題です。介護保険に関することや独居高齢者への対応などは代表的なもので他にもたくさんあります。それらに対する様々な施策は始まったばかりのものが多く、行政が担う部分も大きいです。障がい者福祉に関しても同様に町内にある二つの福祉施設との連携や取り組みのためのサポートは必要で、また、町長の掲げるノーマライゼーションを進めるためにも他方面や横のつながりが求められています。そして地域福祉、身近な福祉を地域で担うという国の方針の下、月形町でも計画が策定されていますが、現状では仕組み作りが不十分で課題も多い分野です。この他、頻繁な制度改正に合わせることや、将来を見据えたボランティア組織のサポートなども含まれます。

そこで町長に質問します。このような現状であるのに、なぜ今福祉分野から人員を削減したのでしょうか。削減した状態で、今後どの様な福祉施策を展開するのか、お伺いいたします。

- 議長 吉田 義一 町長。
- 町長 櫻庭 誠二 今回の人事につきましては、二人の職員がいなくなる、辞められるというような状況の中での緊急避難的に年度途中ではありますが、やらなければならないということでもありますし、来年度に向かっての補充については、しっかりやっていくということをご理解いただきたいと思っておりますし、現体制の中でどうしてもできない、そのようなことであれば、嘱託・臨時職員を採用することも、通知そのことをしながら職員のみなさんには協力を願っているところでもあります。二人辞めたという状況の中で、それぞれ各課のこれからの仕事の配分その他を考えた時に、住民課、産業課に削減についての理解をしていただいたところでもあります。ただ、今後、福祉政策をどう考えるんだというお話ですが、皆さんにご提示を申し上げた3月の議会での事業・予算これらについては人員削減の中ではありますが、職員一丸となってこのことについてはやっていくということでもありますので、削減することで事業量を落とすということは考えておりません。
- 議長 吉田 義一 宮下裕美子君。
- 議員 宮下 裕美子 今回は緊急避難的で、それから来年に関しては充分補充するというお話だったのですが、それを聞いてもどうしても納得ができません。緊急避難的なものであれば何も福祉の分野から削るのではなく、もっと他にも無かったのかその辺のところ非常に疑問です。先程も申しましたように、福祉の分野は人と人との関係で成り立っていて、効率化も難しいという状況ですし、月形町の福祉はきめ細やかな対応で評価を得ています。このようなことから、福祉を政策の柱としている町長からすればこの部分を削ったことに対して先ほどの説明では私はちょっと納得ができないのですが、もし補足するようなことがあればお願いいたします。
- 議長 吉田 義一 宮下議員、人事の関係については、ちょっと考えるところがあるのですが、越権行為的なところも無きにしも非ずというふうに私は判断をしています。
- 議長 吉田 義一 町長。
- 町長 櫻庭 誠二 私自身が現在の月形町の福祉の特徴、知的障がいを持った方、それからお年寄りが多いという状況、そして私が唱えておりますノーマライゼーション、これらを否定するものではないですし、今回の職員の中で一人足りないという状況の中で、どの課も同じように福祉はもちろん大事なことであります。教育も大事なことでありますし、産業もまた大事なことであります。そういう流れの中で、今回、一人ずつを住民課、産業課にお願いをするというところでもありますし、私は今までの福祉のレベル

を落としてやるのだという話はしていないつもりであります。3月に皆さんに議決をいただいた事業これらについてはしっかりやるという話で進んでいるところでもありますし、どうしても現有での対応ができないという話になれば、臨職・嘱託を含めた増員も考えているという話も職員にもしているところです。

○ 議長 吉田 義一 宮下裕美子君。

○ 議員 宮下 裕美子 先ほど議長より人事の関係という点でおっしゃられましたが、私は人事そのものに言及しているわけではなくて、施策の展開の方向としてそこに問題が無いかということをお伺いしたかったわけです。今、町長から当初予定していたものに関してはきちんと行くと、それからもし足りない場合は嘱託等も含め補充を行うとお伺いしましたので、今回の1減については充分理解しましたが、今回の件で福祉の施策が来年度以降も含めた、計画も含めて今年度の段階で進めるべきことがたくさんあります。特に、制度改革がせまっているものがたくさんありますので、その部分に関してきちんと対処を行い政策の漏れや後退が無いように十分配慮して進めていただきたいというふうに考えて、質問を終わります。